

K. W. 2023年卒 地域マネジメントコース

こんな学生時代を過ごしました

興味を持つと熱量はすごいが、飽きっぽい性格です。人前で話すことに抵抗がない性格で勢いで入学出来たと自負しています。学生時代の成績は下から数えた方がはやく、いつも教授に目をつけられていたと思います。卒業出来たのは奇跡です。実習は421Lab.実習、ゼミは眞鍋ゼミでした（眞鍋先生は恩師です）。学校指定の活動とは別に中高生向けのキャリア教育プログラム、カタリバの活動にも参画していました。学生時代のキーワードは「対話」や「きっかけづくり」だったかなと思います。中高生より少し年上で、でも大人ではない「ナナメの関係」から生徒さんたちの気づきや想いに伴走する活動をしていました。先生でもない大学生の私たちが、授業のコマを貰って生徒たちと一緒に学ぶあの空間は、今でもこの大学に入学したからこそ経験出来たことだと思えます。大学4年生に進学する時、1年間休学することにしました。ちょうどコロナ禍のタイミングでした。その当時は周りとは歩幅を合わせることを大事にするタイプだったのですが、一旦ストップして自分の時間を過ごすことに決めました。なにか1つチャレンジしてみようと思い、当時興味のあった「大人の島留学」というプログラムに参画しました。島根の隠岐という離島で1年間暮らしながら働くプログラムで、見ず知らずの同年代の仲間と同じシェアハウスに住み、畑を耕しながら島民と一緒に働きながら暮らしました。隠岐は地方創生では有名な地域で、島民の人口は減っているのに若者の来島数は年々上昇傾向な特異な離島です。北九大で学んでいることが、実際に地域に取り入れられ、また人の暮らしに合わせて変化していく取り組みが非常に興味深く、3年間学んできたことのアウトプットのような1年間でした。大学生と言えば海外留学のイメージですが、日本にも知らない景色や考え方が無数にある中で、国内留学も選択肢の1つになりえるなど感じた期間でした。休学期間を含め5年間在学していましたが、多様な考え価値観を持つ・それを尊重し合える仲間が多い地創は、モラトリアム期間を過ごすには最適な学部だったなと卒業した今だからこそ実感しています。



離島生活最終日。島民のみなさんが紙テープで送り出してくれた景色を今でも思い出します。田舎の良い所も悪い所も含めて最高の思い出です。

卒業後こんなキャリアを歩んでいます

大学を卒業して株式会社JTBに入社をして現在3年目になります。出身は福岡ですが、現在は鹿児島で勤務しています。営業マンとしての就職で、担務は「教育事業」です。主な営業先は中学校・高校の先生方です。修学旅行のプラン作成から打合わせ、当日の実施への同行（添乗員として参加します）など、生徒様にとっての「一生に一度」のお手伝いをしています。添乗先は国内（関東や関西がメインです）、海外にも行きます（シンガポール・台湾・グアムなど）。就職活動において大切にしていた「人と対面し関わりながら働くこと」を実現できていることや「誰かの“楽しい”に寄り添うことが出来る瞬間」があるこの仕事に非常にやりがいを感じています。学生さんの非日常に関わる、ということはカタリバやゼミで取り組んできた活動と非常に近いものを感じます。旅行前と旅行後に生徒の表情がぱっと変わるのを見る瞬間に立ち会えることが幸せです。今後は、今の部署での学びを活かして地域の関係人口創出などにも関わってみたいと思っています。



学生さんの“一生に一度”の思い出に関わることで、驚きや喜びを目の前で感じることが出来ることは私のやりがいです。

現役生へのメッセージ

“地創ブランド”を使い倒してください。使い倒すのはブランド名と、卒業した私たち卒業生、先生方などの人脈です。人と人同士の関係の中でしか物事は進んでいかないと思います。悩みがあればぜひ声をかけてください。また、学生のうちにぜひ自分の人生の引き出しを増やすことをお勧めします。部活、バイト、留学、お越し移住、シェアハウスなど。将来の自分の“暮らし”を考える（どこに住みたい、どんな環境にいたい、どんな人と関わりたい？など）こと、実行に移す余白があるのは大学生ならではの醍醐味だと思います。自分の世界を広げて未来への引き出し、選択肢を増やしまくることは貴重な機会だと感じます。ぜひ残りの学生生活を楽しまつてください！

（2025年11月25日執筆）